松柏中学校アーカイブ通信　第22号　2024年10月22日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村　好克
（タイトルの背景は旧校舎）

【松柏中学校の卒業生紹介】　第７回（特別編）

井上傳一郎さん（1955年度卒業生・川之内大上出身）

昭和38年度～平成12年度まで教員（平成９・10年度は八幡浜教育事務所長、平成15年度～平成20年度は八幡浜市教育委員会教育長）を務められ、今も川之内や千丈校区を温かく見守られています。

松柏中学校の卒業生の方々にとって、傳一郎先生は学級担任や技術（・家庭科）の先生、柔道部の顧問等、様々な場面でお世話になったという方が多いと思います。（私は愛宕中出身ですが、生徒会担当の先生としてお世話になりました。）また、松柏中では地元の先生ということで、年末の恒例行事（当時）：しめ飾りづくりで、地元講師を担当されたこともあります。今行っているアーカイブ活動の中で、多くの方から傳一郎先生のお名前が挙がります。傳一郎先生の教員時代の信条である「子供に慕われ、親に敬われ、同僚に愛され、校長に信頼される教師（でありたい）」がそのまま私たちからは傳一郎先生の姿であると感じています。

八幡浜市の教職員にとっては、先生が八幡浜市の教育長や県教育委員会八幡浜教育事務所長として、指導講話の中で紹介された「やってみせ　言って聞かせて　させてみて　誉めてやらねば　人は動かじ」（山本五十六）とか「誠意と笑顔（で接する）」等の言葉が今でも耳に残っています。松柏中卒業生からは「部活の顧問で、よく御自宅にお邪魔したことがあった。」や「とにかく元気な方で、中学生時代に長距離の選手として大活躍されていた。」等という思い出を聞きました。

７月、８月、10月と３回御自宅にうかがい、お話を聞きました。（写真上）関連して、川之内公民館長の谷口正志さん（1975年度卒）の協力を得て、昔の川之内についての情報も紹介します。

○　1953（昭和28）年３月に川之内小学校を卒業（写真左）し、松柏中学校に入学した。４月末に校舎（旧本館）が完成し、千丈小の間借り校舎から机と椅子を運んだ。体育の授業はハンマーを持ってのグラウンドならし作業だった。

○　父（忠五郎さん）は国語科と保健体育科の教師で、1947年度から３年間、松柏中に勤務していた。（注：忠五郎先生は新制中学や高校で教鞭を執られていた。私も高校で書道を教わった。）

○　校地北東隅の池（左の写真手前）の名称は覚えていない。しかし、釣りをしたことは覚えている。

○　当時は１組、２組ではなく、Ａ、Ｂ、Ｃと呼ぶクラス編成だった。私は３年間ずっとＢ組だった。２年生のときの運動会で、３年生の先輩たちのクラスが原水爆禁止のスローガンで仮装をしたのを覚えている。（通信第20号参照）

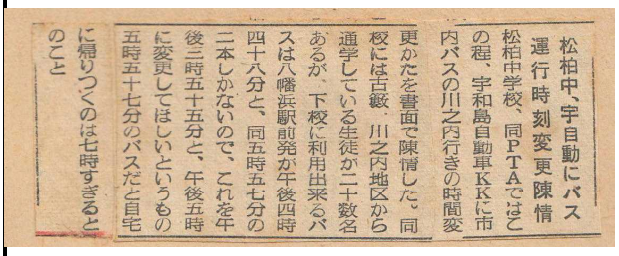
○　父と入れ替わりで1950年度から10年間、母（功：いさおさん）が松柏中勤務になった。私の松柏中在学の３年間、ずっと母親が勤務していた。（社会科担当）（写真左）

○　千丈地区に対して、川之内地区は負けてはならないという思いが常にあった。さらに入学した1953年度は、校区変更で高野地地区の生徒が愛宕中から松柏中に変更になった年度でもあった。高野地地区の生徒にも負けたくなかった。千丈地区の生徒の中には学習塾に通っている生徒がいて、勉強で負けたくなかった。また、自分は身長が低く、運動面でも誰にも負けたくないという思いから、体を鍛えようと決心し、毎朝川之内上地区から走って登校した。そのため、陸上大会では常に長距離の選手に選ばれた。リレーはアンカーだった。体を鍛えたことで、学生時代から、教員人生においても、休んだことはなかった。

○　２年生のときに、今も残るヒマラヤ杉を植えたことを覚えている。

○　（提示した写真：左を見て）「これは修学旅行でのクラス写真です。別府のラクテンチの入口で撮ったものです。私たちの修学旅行先は別府・阿蘇方面で、３泊４日だった。私たちの次の学年から京阪神方面になった。」「この写真を見て！３年Ｂ組のメンバーやけど、唯一名札を付けているのが私です！」

○　雨の日は走って帰ることができないので、母と一緒にバスに乗って川之内に帰った。バスの時刻まで、学校に住んでおられた用務員の杢屋(もくや)さんの部屋で待たせてもらった。息子の利一（としかず）さんは同級生で、用務員の杢屋カツエさんはお菓子づくりが得意だった。



松柏中、宇自動にバス運行時刻変更陳情

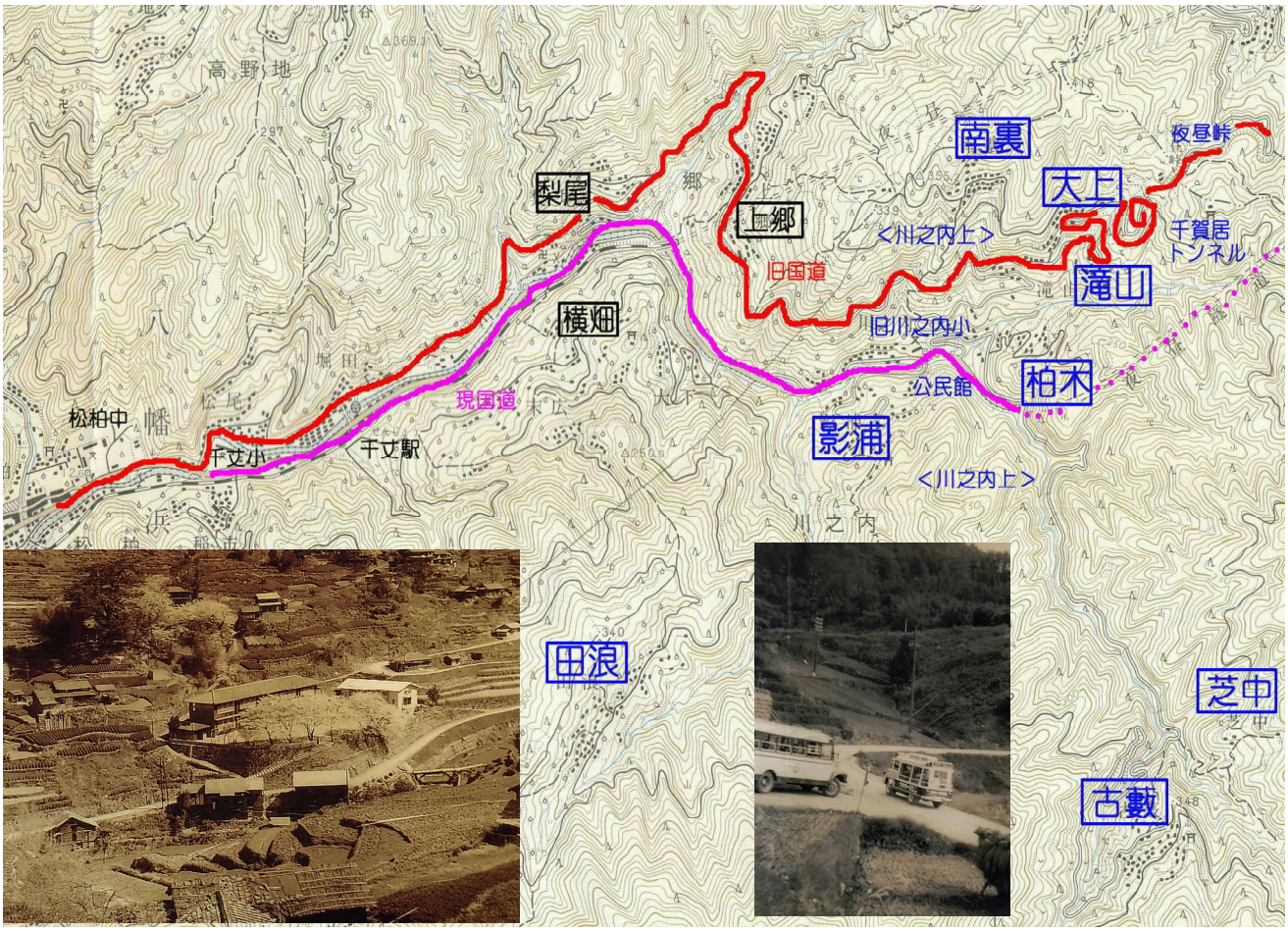
松柏中学校、同ＰＴＡではこの程、宇和島自動車ＫＫに市内バスの川之内行きの時間変更かたを書面で陳情した。同校には古藪、川之内地区から通学している生徒が二十数名あるが、下校に利用出来るバスは八幡浜駅前発が午後四時四十八分と、同五時五七分の二本しかないので、これを午後三時五十五分と、午後五時に変更してほしいというもの五時五十七分のバスだと自宅に帰りつくのは七時すぎるとのこと

川之内の通学・バス事情

左は「八幡浜民報」1962年11月27日付け記事です。川之内方面からのバス通生は、松柏中からバスを使って川之内方面に行き、下車して自宅に向かうと１時間もかかってしまう。そこで、明るいうちに自宅に帰れるよう、学校とＰＴＡが宇和島自動車にバスの時刻の変更をお願いしたという内容である。そこで1955年頃のバス事情を傳一郎先生に尋ねた。

国道の夜昼トンネルが開通するのは1971年４月なので、当時は上郷や大上を通り、千賀居トンネルを通って大洲へ抜けていた。この路線は国鉄、宇和島自動車、伊予鉄の３社が走っており、宇和島のみ、市内バスのため、大上と南裏の分かれ道の所が終点、折り返し地点だった。下の写真はその分岐点の貴重な写真です。傳一郎先生は川之内上の大上地区なので、この路線バスを利用した。

川之内地区は上と下に分かれるが、下は影浦や柏木地区等になる。川之内下方面は、伊予鉄と宇和島の２社が市内バスとして走っていた。小学校下の瀧山商店前が終点・折り返し地点です。ここから古藪や田浪地区とかの生徒は歩くので、ゆうに１時間以上はかかっていたはず。傳一郎先生も、下の生徒と一緒に「下の路線」で帰った場合は、川之内上地区までの「山登り」で30分は要していた。



【撮影年不明：中央に川之内小　下に瀧山商店】　　【撮影年不明：大上のバス終点地点　上に夜昼峠】

＜資料・情報提供＞
川之内公民館　谷口正志氏（川之内公民館長（1975年度卒・滝山）　石田敬幸氏（同年度卒・柏木）
「教育会だより」第50号(2022年・八幡浜教育会）　「川之内地区誌」(1984年・川之内地区公民館）